



北海道・東北ブロック予選会

男女ともに健闘およばず

6月15日～16日の日程で、福島市で開催された「第19回 北海道・東北ブロック予選会」に出場した札幌市代表チームは、男子は決勝戦で秋田県チームに、女子は3位決定戦で北海道代表チーム(旭川市のバスケット 555 チーム)に負け、全国大会の出場を逃しました。

今年の大会は、全国大会での経験が豊富な出村コーチが、久しぶりに男子チームのヘッドコーチを務め、女子チームは、竹田コーチが初采配を振るうことになり、選手たちは「秋田県チームに勝ちたい。絶対に勝てる。」という強い気持ちを持って大会に臨みました。

男子チームは、準決勝では白樺エナジーの選手が中心の北海道代表チームと対戦しました。北海道の大会でいつも対戦しているチームなので、選手は伸び伸びとリズムよくコートを走り回り、大差で勝利することができました。しかし、決勝戦で対戦した秋田県チームの、スピードや多彩な攻撃のパターンは、北海道の大会では経験できなかったレベルで、札幌代表チームはディフェンスでの対応に精一杯となり、攻撃では、秋田の固い守りを崩すことができず、不十分な体勢からのシュートが多くなり、得点差がついた試合となってしまいました。

女子チームは、準決勝で福島県チームと対戦しました。福島県チームには背の高い選手がいましたが、リバウンドも札幌チームが制して、最後まで札幌チームが押し気味で戦いました。しかし、初戦での緊張のためかシュートがなかなか入らず、確実にシュートを入れてきた福島県に負けました。

3位決定戦では、北海道のバスケット 555 チームとの対戦となりました。前日の試合経験が生かされ、ポジションを意識した守備の動きも良くなり、第3クォーターまでは札幌チームがリードしていました。第4クォーターになると走り疲れてトラベリングの反則が多くなり、攻撃のリズムが悪くなってきた時に、北海道チームに連続シュートを何度も決められ、勝利することができませんでした。

福島県で予選会が開催されたのは、東日本大震災の前年の2010年以来でした。会場として使用された「あづま総合体育館」の建物は2010年の大会の時とほぼ同じで、当時の大会のことを少し思い出させてくれました。2010年の予選会では、女子チームは一回戦で仙台市チームに1点差で敗れてしまい、選手たちは悔し涙を流して札幌に帰りました。

しかし、この大会の9か月後に東日本大震災が起きました。福島市や体育館周辺は内陸部なので津波の被害はありませんでしたが、福島第一原子力発電所の事故により、放射能で町が汚染された浪江町などから多くの人が避難して来て、あづま総合体育館は県内で一番大きな避難所となりました。体育館には1500人以上の人が、仮設住宅が建設されるまでの間、数か月もここで避難生活を送ったそうです。

2010年の大会も今年の大会も、体育館のフロアーには、選手たちの歓声や応援の音が響いていました。試合に負けた女子チームの選手たちは涙を流しましたが、その涙は次の大会を目指せる希望の涙でした。

しかし、同じ体育館のフロアーで、2011年は深い悲しみや絶望の涙がたくさん流されました。故郷に再び戻ることができないことを知った浪江町の人たちが流された涙や、震災による被害の跡は、体育館や周辺にはもう残っていませんでしたが、2011年のできごとは、誰もが決して忘れてはいけません。と改めて強く思いました。

7月の練習日

7日(日)	9:15~12:20	琴似小学校	全体練習
12日(金)	19:00~21:30	手稲東中学校	夜練習
13日(土)	9:15~12:15	琴似小学校	全体練習
19日(金)	19:00~21:30	手稲東中学校	夜練習
26日(金)	19:00~21:30	手稲東中学校	夜練習
28日(日)	9:15~12:20	みなみの杜高等支援学校	全体練習

